

このたびは調査にご協力いただきありがとうございます。

ご施設名 ()

回答いただいている先生について教えてください。

施設責任者である はい いいえ

生殖医療専門医である はい いいえ

質問は質問 1 から質問 4 の 4 つのパートに分かれています。

・ 質問 1 自己免疫疾患患者についての調査 **全員**お答えください。

・ 質問 2~4 がん患者についての調査

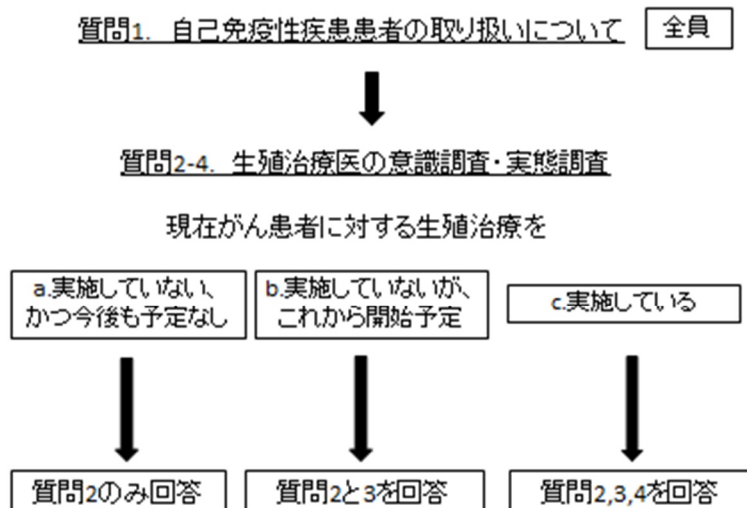
質問 2 診療経験の有無の調査 **全員**お答えください。

質問 3 がん患者に対する妊孕性温存治療実施に際しての意識調査

質問 2 でがん患者に対して妊孕性温存治療を実施している、あるいは実施予定（あるいは実施を検討している）とお答えいただいた先生はご回答ください。

質問 4 がん患者に対する妊孕性温存治療の実態調査

質問 2 でがん患者に対して妊孕性温存治療を実施していると答えいただいた先生はご回答ください。



註 1) 本調査において、医学的適応による妊孕性温存治療とは、「がんや自己免疫疾患などの原疾患の治療前あるいは治療中（初発、再発は問いません）に、治療による卵巢機能低下に備えて、胚、卵子、卵巢組織を凍結保存すること」と定義します。なお、がんや自己免疫疾患の既往があったとしても、すでに治療しており、今後の追加治療を予定していないものは除きます。

質問1 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎など）の患者について

（全員回答をしてください）

（1-1）これまでに自己免疫疾患の患者から妊孕性温存治療についての相談を受けた経験がありますか？

- a. はい b. いいえ

（1-2）貴施設において、2016年1月～2019年12月に自己免疫疾患患者に対して、胚あるいは卵子あるいは卵巣組織の凍結保存を行いましたか？

- a. はい b. いいえ

（1-3）（1-2）で【a.はい】とお答えいただいた場合

2016年1月～2019年12月までに貴院にて自己免疫疾患の患者に対して実施した以下の治療の各件数について教えて下さい。

- a. 胚のみ (件)
b. 卵子のみ (件)
c. 胚と卵子 (件)
d. 卵巣組織のみ (件)
e. 卵巣組織と卵子 (件)
f. 卵巣組織と胚 (件)
g. 卵巣組織と卵子と胚 (件)

質問1は以上になります。

続けて質問2に進んでください。

2 番目にあてはまる ()

3 番目にあてはまる ()

- a. インフォームドコンセントにかかる手間と時間により、通常診療が圧迫される。
- b. 長期間の保存が安定的にできるか（患者への連絡も含め）わからない。
- c. 近隣に実施している ART 施設があるため必要性を感じない
- d. 治療実施適応やプロトコールの選定に関する指針がない。
- e. がん治療医との連携が緊密に取れるかわからない。
- f. 経営上の利益にならない。

(2-6) 貴施設に妊孕性温存希望のがん患者が来院した場合（あるいは今まで来院したことがない場合には今後來院した場合）紹介先の ART 施設を決めていますか？

- a. はい
- b. いいえ

質問(2-4)で【b. 実施するつもりはない】とお答えいただいたご施設に対する質問はこれで終わりです。

ご協力いただきありがとうございました。

その他の先生は、質問3に進んでください。

質問3 がん患者に対する妊孕性温存治療実施に際しての意識調査

質問(2-3)で【a. はい(実施している)】、あるいは質問(2-4)で【a. 実施予定である、あるいは実施を検討している】とお答えいただいた場合、質問3に回答をしてください。

(3-1) がん患者に対する妊孕性温存治療を行う場合に、以下の点においてそれぞれあてはまると思うものを1つ選んでください。実施見込みの施設の先生は予測されるものを1つ選んでください。

- 治療実施適応の選定(患者の原疾患、原疾患の病期、患者の年齢、全身状態など)について
 - しばしば悩む
 - たまに悩む
 - 全く悩まない
- 胚・卵子凍結における卵巣刺激の可否や最適なプロトコールの選定について
 - しばしば悩む
 - たまに悩む
 - 全く悩まない
- 胚、卵子、卵巣組織の安定的な長期保存(患者との連絡や自施設の継続性も含む)について
 - とても不安だ
 - 少し不安だ
 - 全く心配はない
- 使用されないかもしれない胚、卵子、卵巣組織が蓄積する可能性(コストや保管場所の確保も含む)について
 - とても負担に感じている
 - 少し負担に感じている
 - 全く負担ではない
- がん治療医との間の情報提供などの連携について
 - ほとんどの場合スムーズにできている
 - スムーズにいかないことがしばしばある
- 自施設のある地方自治体から提供される公的援助に関する情報について
 - 情報の入手は容易であり熟知している
 - 情報が入手しづらくよくわからない
- 自施設で対応困難な症例(例 1.自施設で卵巣組織凍結をやっていないが、組織凍結が望ましいと考えられる、例 2. 合併症のため自施設では対応困難である、など)を他のART施設へ紹介する際の連携について
 - 紹介はスムーズである
 - 紹介はしばしば手間取る
- 患者の意思決定に関わる職種について
 - 医師のみ
 - 医師と看護師
 - 医師と心理士
 - 医師と看護師と心理士

9. がん患者の妊孕性温存治療に関する知識を持った人材（医師、看護師、心理士）の確保について
- a. 確保は容易で複数の人材がいる
 - b. 確保は容易ではないが複数の人材がいる
 - c. 確保は困難で知識を持っているのは自分だけである

(3-2) がん患者の妊孕性温存治療を行うに際し、悩んだり不便だと感じていたりすること、あるいはこのようなものがあつたらいいなという希望などありましたら、自由に記載してください。

質問(2-4)で【a. 実施予定である、あるいは実施を検討している】とお答えいただいたご施設に対する質問はこれで終わりです。ご協力いただきありがとうございました。

質問(2-3)で【 a. はい(実施している)】とお答えいただいた先生は、質問4に進んでください。

質問 4 がん患者に対する妊孕性温存治療の実態調査

質問(2-4)で【a. 実施予定である、あるいは実施を検討している】とお答えいただいた場合、質問 4 に回答をしてください。

(4-1) 貴施設において、2016年1月～2019年12月に取り扱った、がん患者に対する胚あるいは卵子あるいは卵巣の凍結保存の件数を教えてください。

- a. 胚のみ (件)
- b. 卵子のみ (件)
- c. 胚と卵子 (件)
- d. 卵巣組織のみ (件)
- e. 卵巣組織と卵子 (件)
- f. 卵巣組織と胚 (件)
- g. 卵巣組織と卵子と胚 (件)

(4-2) がんの病名毎の患者数と凍結時の平均年齢、最低年齢、最高年齢を教えてください。

- a. 乳がん (人) (歳) 最低(歳) 最高(歳)
- b. 血液がん(人) (歳) 最低(歳) 最高(歳)
- c. その他のがん 具体的に病名、患者数、平均年齢の記載をお願いします

(例：ユーイング肉腫 2人 19.5歳)

()

(4-3) 凍結保存前に、医師からの説明に加え、心理士あるいは看護師によるカウンセリングが行われていますか？

- a. いいえ
- b. はい

以下、それぞれ貴施設で施行されているものにつきお答えください。

I. がん患者に対する胚凍結保存に関して

注) 卵巣組織凍結を目的として採取した卵巣組織より得た卵子を用いた胚凍結は除きます

1. 適応年齢を定めていますか？
 - a. いいえ
 - b. はい ()歳以上 ()歳以下

2. 適応疾患を定めていますか？
 - a. がん種によらずすべてのがん患者を適応としている。
 - b. がん種により制限を設けている。bの場合、具体的にご記載ください
(例：子宮全摘を必要とする子宮頸癌や子宮体癌は適応外としている)
()

3. 胚の保存は何年ごとの更新としていますか？ ()年
一定期間毎の更新制にしていなご施設は以下に具体的な保存期間をご記載ください。
()

4. 2016年1月～2019年12月の期間に、がん患者の凍結保存胚の融解移植は行われましたか？
 - a. いいえ
 - b. はい ()名の患者に計()回移植した。bの場合、臨床妊娠例(胎嚢が確認できた)症例はありますか？
 - b-1. いいえ
 - b-2. はい

5. 乳がん患者に対する胚凍結を施行した場合にお答えください。
原則的に排卵誘発剤を用いた卵巣刺激を行っていますか？
 - a. いいえ
 - b. はいbの場合、原則的にアロマターゼ阻害剤を併用しますか？
 - b-1. いいえ
 - b-2. はい

6. 血液がん患者に対する胚凍結を施行した場合にお答えください。
 - 6-1. 原則的に排卵誘発剤を用いた卵巣刺激を行っていますか？
 - a. いいえ
 - b. はい
 - 6-2. 排卵誘発開始の時期は原則的に下記のどちらですか？
 - a. 通常の卵胞期初期
 - b. ランダムスタート(a以外の時期)あるいはダブルスティミュレーション

II. がん患者に対する卵子凍結保存に関して

注) 卵巣組織凍結を目的として採取した卵巣組織より得た卵子の凍結は除きます

1. 適応年齢を定めていますか？
 - a. いいえ
 - b. はい ()歳以上 ()歳以下

2. 適応疾患を定めていますか？
 - a. がん種によらずすべてのがん患者を適応としている。
 - b. がん種により制限を設けている。
bの場合、具体的にご記載ください
(例：子宮全摘を必要とする子宮頸癌や子宮体癌は適応外としている)
()

3. 卵子の保存は何年ごとの更新としていますか？ ()年
一定期間毎の更新制にしていなご施設は以下に具体的な保存期間をご記載ください。
()

4. がん患者の凍結保存卵子を、2016年1月～2019年12月の期間に、融解、顕微授精して胚移植を行いましたか？
 - a. いいえ
 - b. はい ()名の患者に計()回移植した。
bの場合、臨床妊娠例(胎嚢が確認できた)症例はありますか？
b-1. いいえ b-2. はい

5. 乳がん患者に対する卵子凍結を施行した場合にお答えください。
原則的に排卵誘発剤を用いた卵巣刺激を行っていますか？
 - a. いいえ
 - b. はい
bの場合、原則的にアロマターゼ阻害剤を併用しますか？
b-1. いいえ b-2. はい

6. 血液がん患者に対する卵子凍結を施行した場合にお答えください。
 - 6-1. 原則的に排卵誘発剤を用いた卵巣刺激を行っていますか？
 - a. いいえ b. はい
 - 6-2. 排卵誘発開始の時期は原則的に下記のどちらですか？
 - a. 通常の卵胞期初期
 - b. ランダムスタート(a以外の時期)あるいはダブルスティミュレーション

III . がん患者に対する卵巣組織凍結保存に関して

1. 適応年齢を定めていますか？
 - a. いいえ
 - b. はい ()歳以上 ()歳以下

2. 適応疾患を定めていますか？
 - a. がん種によらずすべてのがん患者を適応としている。
 - b. がん種により制限を設けている。
bの場合、具体的にご記載ください
(例1：子宮全摘を必要とする子宮頸癌や子宮体癌は適応外としている、例2：白血病は適応外としている)。
()

3. 卵巣組織の保存は何年ごとの更新としていますか？ ()年
一定期間毎の更新制にしていなご施設は以下に具体的な保存期間をご記載ください。
()

4. 卵巣の採取は以下のどちらの方法で行っていますか？
 - a. 開腹手術
 - b. 腹腔鏡下手術

5. 摘出する卵巣組織は以下のどれですか？
 - a. 片側、あるいは両側卵巣の一部の組織
 - b. 片側卵巣全部 (加えて対側卵巣の一部組織を採取したのものも含む)
 - c. 両側卵巣全部

6. 採取した卵巣から、卵子の採取も行うことを原則としていますか？
 - a. いいえ
 - b. はい

7. 卵巣組織の凍結方法はどちらですか？
 - a. 緩慢凍結法
 - b. ガラス化法

8. 凍結保存した卵巣組織の融解移植は、2016年1月～2019年12月の期間に行われましたか？
行った場合件数もお答えください。
 - a. いいえ
 - b. はい ()件 質問9以降にお答えください。

9. 卵巣組織の移植部位は以下のいずれを原則としていますか？
 - a. 同所性
 - b. 異所性

10. 卵巣組織移植後にがんの再発を認めた症例はありますか？
a. いいえ b. はい
11. 卵巣組織移植後に臨床妊娠成立（胎嚢確認）した症例はありますか？
a. いいえ
b. はい（ ）人（ ）回 質問 12 にお答えください。
12. 妊娠の方法は以下のどれですか？
a. 自然妊娠（排卵誘発剤を用いないタイミング指導のみもここに含む）
（ ）人（ ）回
b. 体外受精を除く不妊治療後妊娠
（ ）人（ ）回
c. 体外受精後妊娠
（ ）人（ ）回

これですべての質問は終わりです。ご協力いただきありがとうございました。